

## チリ政治情勢報告（５月）

平成２９年６月

### 1. 概要

（１）内政では、与党会派「新多数派」が７月に行われる大統領選挙予備選挙を実施しない決定を行ったことを受けて、大統領候補２名（ギジェル上院議員，ゴイック上院議員）はそれぞれが１１月の大統領選挙に向けた活動を推進。他方，野党会派「Chile Vamos」及び「拡大前線」は予備選挙実施に向けた立候補登録を行った。

（２）外交では，バチェレ大統領が中国を訪問し，「一带一路」フォーラムに出席した。また同大統領訪問中に中チリ間で合計１０件の合意文書に署名された。

（３）６月１日発表のAdimark GfK社調査による４月のバチェレ大統領の支持率は３１％（前回比＋３ポイント），不支持率は６６％（前回比－３ポイント）であった。

### 2. 内政

#### 大統領選挙に向けた動き

##### ア 与党会派「新多数派」

与党会派「新多数派」においては，７月２日に予備選挙が実施されず，１１月１９日の大統領選挙にゴイック上院議員（キリスト教民主党（DC）党首）及びギジェル上院議員（無所属，急進社会民主党（PRSD）推薦）が出馬することを受けて，それぞれが選挙活動を推進。また，「ギ」上院議員を支持する民主主義のための党（PPD），社会党（PS），急進社会民主党（PRSD）らの党首は，大統領選予備選挙に参加しないこと（分裂選挙）を決定したDCとは，上下両院議員選挙でも協力することは困難であるとして，大統領選挙・議員選挙共に分裂選挙となる方向。

##### イ 野党会派「Chile Vamos」及び「拡大前線」

１１日，選挙管理委員会において，野党会派「Chile Vamos」は大統領候補３名（ピニエラ前大統領（国民革新党：RN），オサンドン上院議員（無所属），フェリペ・カスト下院議員（Evopoli:政治発展党）），また，「拡大前線（Frente Amplio）」は大統領候補２名（サンチェス氏（無所属，ジャーナリスト），マジョール氏（無所属，社会学者））の予備選挙への立候補登録がなされた。これを受け，７月２日には「Chile Vamos」及び「拡大前線」で予備選挙が実施されることが決定。

## ウ その他

19日、エンリケス＝オミナミ元PRO（革新党）党首が選挙管理委員会において大統領選挙への立候補登録を行った。「オ」党首は2009年、2013年に続き3度目の大統領選挙出馬となる（過去2度の選挙ではいずれも3位）。

## 3. 外交

### （1）チリ要人の外国訪問

#### ア バチエレ大統領

##### （ア）インドネシア

11－12日、バチエレ大統領はインドネシアを公式訪問した（ムニョス外相同席）。訪問中、「バ」大統領はウィドド・インドネシア大統領との首脳会談を行い、環境保護・海洋保護に向けた両国間の協力等につき協議された。その後行われた「ム」外相とマルスディ・インドネシア外相による合意文書署名式では、①両国の外交・公用旅券所有者に対する査証免除のための覚書及び②チリーインドネシア包括的パートナーシップ協定交渉を可及的速やかに締結するためのジョイント・ステートメントに署名された。その後「バ」大統領及び「ム」外相はMINASEAN事務総長と会談した。

##### （イ）中国

12－14日、バチエレ大統領は中国を公式訪問すると共に、「一带一路」フォーラムに出席したところ、概要は以下のとおり。

#### i 中国要人との会談及び合意文書への署名

(i) 13日、中国を公式訪問中のバチエレ大統領は習近平国家主席と会談した。同会談では、中チリFTAの深化、投資促進、貿易・文化・科学・観光等の分野での協力、第二回CELAC－中国フォーラムの開催、太平洋同盟とアジア地域の協力等につき協議された。また14日には、「バ」大統領は李克強首相と会談し、経済及び貿易分野での二国間協力やアジア太平洋とラ米地域の経済統合等につき協議した。

(ii) 今般訪問において、合計10件の合意文書に署名された。主なものは以下のとおり。

①南極協力に関する協定

②チリ外務省国際経済関係総局（DIRECON）及び中国国際貿易促進委員会（CCPIT）による戦略的協力のための覚書

③農業分野に関する合意（動植物検疫制度向上のための協力合意、第三国を経

由するチリ産フルーツの対中輸出のための輸送条件に関する覚書，チリ産アボガドの対中輸出に関する議定書)

④チリ証券・保健監督局及び中国証券監督・管理委員会による協力・情報交換に関する覚書

⑤資促進機関「InvestChile」及びCCPITによる協力協定

⑥コンセプション大学・ハルビン工業大学及びDATANG Telecom社による情報通信技術に関する共同研究センター創設のための覚書

## ii 「一帯一路フォーラム」への出席

13-14日，バチエレ大統領は「一帯一路」フォーラムに出席した。「バ」大統領は，経済開放に関する懐疑的な見方が拡がる中，「一帯一路」フォーラムは，現状のより先を見据え，持続的な発展のために共に取り組むための機会であり，インフラ，コネクティビティ，持続的発展といった分野には，地域及び世界レベルでの一層の協力を促進できる可能性がある旨発言した。

iii その他，今般の「バ」大統領訪中に際し，チリがアジアインフラ投資銀行に加盟することが発表された。

## (ウ) エクアドル

23日，バチエレ大統領はエクアドルを訪問し，大統領就任式に出席した（ムニョス外相同席）。同式典には，「バ」大統領のほかにはアルゼンチン，ペルー，パラグアイ，ボリビア，コロンビア，ホンジュラス，コスタリカ等，中南米諸国の首脳が出席した。

## イ ムニョス外相の米国訪問

(ア) 4-5日，ムニョス外相が米国を訪問し，ティラーソン米国务長官，グテーレス国連事務総長，アルマグロ米州機構事務総長と会談した。「ティ」国务長官との会談においては，両者は米チリFTA，査証免除協定（ビザ・ウェーバー・プログラム），太平洋同盟，ハイチ情勢，コロンビア和平，中米におけるチリの三角協力等について協議した。会談後に「ム」外相は，本年3月19日に行われたバチエレ大統領とトランプ米大統領の電話会談で「ト」大統領が「バ」大統領を米国に訪問するよう招待したことについて，外交ルートをとおして本年中に「バ」大統領が訪米できるよう実現可能性を探る旨述べた。

(イ) 4日に行われたグテーレス国連事務総長との会談では，国連ハイチ安定化ミッション（MINUSTAH）に関し，現在ハイチに派遣されているチリ軍部隊の撤退後も，チリから派遣していた警察要員については，ハイチに残留

させ、ハイチ警察を支援していくと述べた。その後行われたアルマグロOAS事務総長との会合においても、コロンビアにおいて和平プロセスやベネズエラ情勢につき協議された。

## (2) 外国要人のチリ訪問

### ローリー・トリニダード・トバゴ首相

29日、ローリー・トリニダード・トバゴ首相がチリを訪問し、バチェレ大統領との首脳会談を行った（チリ側からムニョス外相らが同席）。その後、両首脳と「ム」外相及びヤングTT大統領府長官は、知的財産分野での協力に関する覚書の署名式に出席した。「バ」大統領は、TTは、エネルギー分野において非常に重要なパートナーであり、液化天然ガスの主要な供給源でもある点、また、チリからカリブ共同体（CARICOM）への輸出のうち、38%がTTに輸出されていることから、今後はTTとの貿易協定締結の可能性を検討するための作業グループを設立することに関心を有していると述べた。TTはチリにとって液化天然ガス（LNG）の主要な供給源であり、2016年にはチリが輸入したLNGのうち92%はTT産。